

05  
KEYWORD

米トランプ政権の影響

外客消費と海旅需要を刺激

土志田るり子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査部研究員

16年は中国で輸入品にかかる関税が引き上げられて“爆買い”が一巡したほか、年初から円高が進み、訪日外国人の消費はさえない。しかし、17年は訪日客消費の回復が期待される。米国大統領選後、次期トランプ政権への期待感から急速に円安が進んでいるためだ。

訪日外国人にとって、自国通貨での予算が一定ならば円換算の予算が膨らむ有利な状況であり、1ドル=110円超の水準が続けば訪日客の支出も増加すると考えられる。なお、近年、訪日外国人の支出は娯楽サービスの比重が高まっており、支出の増加分の多くはサービス消費に向かうとみられる。

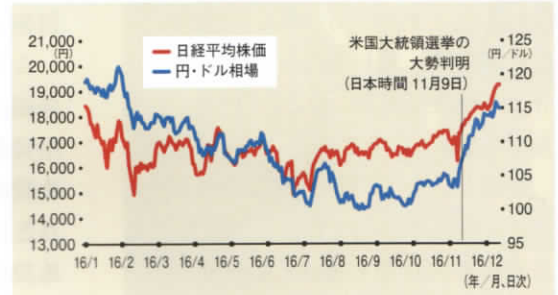
しかし、円安と同時にドル高が進む

ことは訪日外客数の減少要因となる懸念もある。訪日外国人の8割以上はアジアからの旅行者であり、ドル高でアジア新興国の通貨が下落すると円安のメリットが相殺されるうえ、各国の景気を悪化させる恐れがあるためだ。

一方、日本人の海外旅行は、大統領選後の株高が旅行支出増加の追い風になると期待される。円安によりドル換算した予算は縮小するが、家計所得の増加が続くこと、これまでテロの影響などで海外旅行が控えられてきたことを背景に、17年は海外旅行の需要が高まっていくだろう。

もっとも、トランプ次期大統領は保

● 株価と為替レートの動き



護主義的な貿易政策を掲げており、大幅にドル高が進むと、それをけん制する可能性がある。また、米国景気回復への期待感が剥落したり、次期大統領の政策運営が行き詰まるような場合には、株安、ドル安(円高)が進み、状況が一転するリスクもある。

06  
KEYWORD

日中間の旅行動向

人気衰えず距離近づく

近藤剛 フレンドリージャパン代表取締役

16年の中国人訪日旅行需要は、前年、前々年に続いて順調に増加し、FITシェアが拡大した。日中国交正常化45周年を迎える17年もおそらく傾向は変わらず、来客数とFITシェアがともに拡大することは間違いない。

昨今、中国人観光客は「モノからコトへ」といわれるが、私は「モノもコトも同様に多種多様な方向に広がる」と考えている。日本では「爆買いが終結し消費が落ち込んだ」といわれるが、それは不法な個人代购者の引き締めと円安による日本円での売上高の低下が大

きな要因であり、買い物需要の低下ではない。今でも中国メディアは、訪日客の買い物消費は拡大を続けていると報道している。民間調査機関の胡潤百富によると、特に富裕層は訪日観光の目的で買い物(68%)と食事(47%)が他国と比べて際立って高い。本物と高品質を求める若年層セレブを中心に買い物人気はまだまだ堅調だ。

しかし、中国人が海外旅行に最も求めるものはなんといっても非日常の感動体験だ。観光、買い物、食事、宿泊のあらゆる場面で日本らしさを実感し

てもらうことが最大のサービスになる。

一方で、日本人の中国への訪問者は年々減少しており、15年は11年の366万人から約30%落ち込んだ。特に観光目的は全体の15%と極めて少ない。16年は増加基調に転じたが、大気汚染や食品の不衛生、マナーの悪さ、反日思考等のマイナス面だけがメディアで頻繁に取り上げられる風評被害が大きい。

17年は日中双方が互いを認め合い、リアルな民間交流として最高な「旅行」を通して距離が近づく年になると確信している。